

# 京都 教育センター通信

【発行】京都教育センター事務局

〒606-8397

京都市左京区聖護院川原町4-13

京都府教育会館3階

TEL & FAX 075-752-1081

ホームページ <http://www.kyoto-kyoiku.com/>

メール: [kyoto-kyoiku@center.email.ne.jp](mailto:kyoto-kyoiku@center.email.ne.jp)

## 「個人請願の組織化」のススメ

請願とは、国や自治体などの公共機関に対し、一定の措置を求める意思を文書で伝える行為です。これまで請願は、労働組合や市民団体、政党などが請願書を作成し、それに賛同する方の署名を集めて提出する「請願署名運動」の形式が一般的でした。

しかし、この方法は組織力が弱く、多くの署名数を集められない場合、行政や議会で審議、採択を行わせる力を持てなかったり、署名者の主権者意識がそれほど高まらない「お任せ民主主義」に陥ったりする懸念もあります。また、請願を組織する側にも、「みなさんの願いを代わりに実現してさしあげます」といった「請負民主主義」的な取組にとどまってマンネリ化し、民意を政治や行政に反映できない結果に終わって、当事者の不快感、徒労感がつる結果を招いてしまっている傾向がみられます。

請願権は憲法第16条により基本的人権の一つとして保障されており、誰でも、いつでも、どの機関に対しても行うことができます。年齢や国籍、有権者が否かに

関係なく、子どもや外国籍の方でも請願書を提出する権利があります。したがって、

個人による請願を組織化するという方法も、有効な民主主義実践となり得るのでは



山崎 洋介  
(大阪大学助教、ゆとりある教育を求め  
全国の教育条件を調べる会会長)



ないかと考えています。百名分の請願署名を集めるのではなく、百名の方の個人請願の組織化に取り組むのです。そのことが、行政や議会の民主化、主権者意識の向上、自治活動の活性化につながる可能性があるのではないかと期待します。

「ゆとりある教育を求め全国の教育条件を調べる会」では、2023年度から「学校における教員不足と長時間過密労働の解消のため、基礎定数改善による正規教員増を求める意見書」を地方議会に個人請願する活動を呼びかけ、現時点で北海道、秋田県、奈良県、高知県などの議会で採択されています。特に秋田県では加賀屋俊悦さんがたった一人で行った個人請願により県下の7割を超える市町村議会で採択されました。また、奈良市では、学校統廃合計画に対する請願書が、廃校対象校の小学生3名(うち1名は保護者が提出)から奈良市議会に提出され、議会審議にインパクトを与えました。

これらの取組の経験交流では、たとえ請願採択に至らなくても、請願すること自体が、行政や議会を活性化させ、請願者自身の民主主義実践と主権者教育にもつながっていると報告されています。身近な課題に対して声を上げることが、より良い社会の形成に寄与すると言えるでしょう。

## 全国「教育のつどい2025」報告レポート ―歌があつてよかったね―

福知山市・小学校 山川 智美



24年度、小学校で1年2組33人を担任しました。

4月、いろいろな保育園やこども園、幼稚園からやってきたこどもたちは、お互いに様子見て、事前に聞いていた情報とちがって、割とおとなしく学習していました。

3階にある音楽室に上がることが嬉しく、そこで歌う歌は、楽しいと感じてくれたようです。

♪つくしがでたよ(4月)

5月、友達の名前をまだ覚えていない子がいるけれど、それぞれにかかわりもできてきて、「黄色いズボンの子がわるぐちいっちゃった。」などの訴えが増えてきました。

「ぼくは、まだ、字が読めへんのやで。」という子もいるので、いつもは歌詞を紙に書いて黒板にはっているのですが、ひらがなを覚えるまで、口移して歌を渡すことにしました。

みんな私の口を一生懸命見ているので、新しい歌を渡すときはとても緊張しました。

♪もりのかじや(5月)

6月、勢いが出てきたこどもたち。

ひらがなを学習したので、歌詞を書いて、読んでから歌い始めました。

♪いっぱんみち(6月)

休み時間には教室からだれもいなくなります。外遊びが大好き。

友達関係も広がり、遊びに行つてはもめて帰ってくるが多くなりました。

しかし、また次の休み時間には外に飛び出す。「まいにち まいにち しゅっぱーつ」に共感し、この歌が大好きになりました。

9月、夏休みを過ごし、帰ってきたこどもたち。

7月の続きで元気に戻ってくるかと思っていたら、以外にも穏やかなスタートでした。

長い夏休みを知らない保育園、子ども園出身の子どもたちが多いので、また様子見をしていたのかもしれませんが。初日は歌声も様子見でしたが、次の日には学校の生活を思い出し、元気いっぱい跳ね回っていました。

比較的穏やかに過ごせたのは、あまりに暑い夏、始業式から2週間は運動会練習禁止令が出て、教師も、学校の雰囲気も、落ち着いていたからということもあると思います。

しかし、暑さ指数が高く、外に出られない日が続きます。

しかも、大好きな図書室は、貸出電子化の作業のため、閉鎖中。

教室で鍵盤ハーモニカをふいたり、自由帳をしたりして過ごしている子どもたちに、歌の中で元気に跳ね回ってほしいと思って、「ポップステップジャンプくん」を渡しました。

♪ホップ ステップ ジャンプくん  
はすむよ はすむよ(10月)



「♪ぼくはホップ ホップくん」で始まる歌、みんなすぐにホップ ステップ ジャンプくんになって歌い、歌声が跳ね回っているようです。

特に、小学校という枠にはまりきらないA君やB君は、自分の歌だとばかりに、ずっと口ずさんでいるくらい大好きになりました。わたしも、ピアノで子どもたちと一緒にとんではねて、とっても楽しく歌える歌です。家庭環境が変わり、落ち着かなくなったA君が、学校にいる間、ずっと友達の悪口を言っている状態が続きました。

賢くなりたいという思いをもって、がんばっている子どもたちですが、私自身も振り回されることもあり、何かしらストレスを感じていたのでしょうか。小さいことでいざこざすることが増えてきました。

ひとつひとつ、私が間に入って解決するのではなく、当事者同士、話をさせて、自分の思いを相手に伝えるようにしました。

意地悪をされた子も、言いたいことを相手に伝えて最終的に謝ってもらえると、自分で解決できたと思え

いやな気持ちを引きずらないで次の活動に入るこ  
とができます。おとなしく見える子も、結構しっか  
り言うのに、驚いたり感心したりさせられます。

♪チポリーノの冒険(11月)

♪カラスの歌(12月 終業式の後)

歌声は明るく、子どもの心が自由に解放されて  
いるのを感じます。

いざこざをおこしたり、仲直りしたりして、お互  
いのことを分かり合うことで関係も深まってきたの  
を感じます。

みんなで歌うことがとても楽しそうです。「かぶ  
こさん、いちごさん…」のことは、はじめのころ  
は、ひとりひとりを確認しながら呼びかけているよ  
うで、とてもかわいらしいなあと聞いていましたが、  
今ではよく知っている友達を呼ぶように言うよう  
になったのも面白いです。

3学期になりました。

2学期はじまりのようなよそよそしさはもうな  
く、元気いっぱいいつものように始業式の日からスタ  
ートすることができ、歌声も初めの音から飛び出し  
てきました。

「ブルッキーのひつじ」を、絵本を見せながら歌う  
て渡しました。じつと絵を見ながら耳を澄ませて  
いる子どもたち、集中が見えるようです。  
長い歌なのですが一回目から子どもたちの声がか  
えってきました。

文字をいっしょうけんめい追いつながら耳に残った  
音を歌にしている子どもたちの集中力にびっくり  
しました。

♪ブルッキーのひつじ(1月はじめて歌う)

それぞれの子どもたちが自分の声で、歌いたい  
ように歌う声が集まって、ここにしかない歌声が生  
まれます。

同じ歌でも、その時によって違って聞こえます。  
ピアノを弾きながら子どもたちの顔を見ている  
と、「べんきょういやや」と言って、前の時間に授業  
に向かえなかった子も、みんなの前で声を出すこ  
とに抵抗のある子も、歌を歌う顔はとても明る  
く、気持ちが集まっているのを感じることができ  
ます。

歌を歌うときには、まっすぐにこちらを向いて  
にこにこ歌っています。歌があつてよかったね、っ  
て思います。

## 第56回京都教育センター研究集会

## 分科会要項

## 1. 地方教育行政 〈公益事業室〉

テーマ 「子どもと府民のための教育行政を問う  
ー給特法改正後の京都府での教職員の  
働き方改革を検討するー」

基調報告 中野宏之（京都教職員組合）

報告 「城陽市学校現場の実態」  
松山成明（宇治久世教組）

報告 「教師の働き方改革と事務職員の仕事」  
奥村久美子（事務局）

報告 「京都府議会での論戦から」  
京都府会議員団から（要請中）

## 2. 生活指導 〈202〉

テーマ 「子どもたちの願いや生きづらさを聴き取  
り、支えるー私たちが抜きに、私たちのこ  
と決めないでー」

基調報告 恩庄 澄（研究会事務局）

報告 「学校は、私にとってどんな場所であつ  
たか」

報告 「悲しみを背負った少女」  
（京都市・小学校）

報告 「彼らとの3年間戦争」  
（京都市・中学校）

報告 「メイク・髪はどうあるべきか」（仮  
題）（京都府・高校）

報告 「自由の中で見えてくる『しんどさ』の  
正体」（京都市・高校）

## 3. 学力・教育課程 〈203〉

テーマ 「言語能力に焦点をあてた学力形成と  
学校現場の課題」

基調報告 鋒山泰弘（追手門学院大学）

報告 「タネをまいて耕そう！内言を豊かに」  
高橋智和（京都市・小学校）

報告 「国語『はじめてのこんぎつね』」  
加藤耕太（京都府・小学校）

報告 中学校（予定）

## 4. 子どもの発達と地域 〈302A〉

10:00~13:00

テーマ 「誰もが共生できる社会をめざして」

基調報告 姫野美佐子（研究会事務局）

実践報告 「多様性と共生について」 小山民子

12月21日(日) 10:00~16:30

教育文化センター〈各室〉にて

## 5. ワークショップ・生きぬくためのカウンセ

リング 〈205〉

テーマ 「いろいろな制度は充実(?)してきた  
が、本当に生きづらはなくなっ  
てきたのか」

報告 芦田幸子（研究会事務局）  
エンカウンターグループワーク

## 6. 高校問題研究会 〈302B〉

13:00~16:30

テーマ 「教職に魅力を取り戻すために…生きが  
いが持てる現場を」

今、教員のなり手が少なくなっていること  
が問題になっています。かつて教職は、魅力  
とやりがいのある職業と考えてきましたが、  
本当にそうなののでしょうか？ 教職員の  
働き甲斐、生きがい、悩み、困難などを、  
現場の先生方を中心としてパネルディスカッ  
ションを行います。

## 7. 教科教育・国語 〈204〉

テーマ 「『国語』の学習で、子どもたちにどんな  
『ことば』の力をつけるのか…」

基調報告 相模光弘（研究会事務局）

報告 「小学校2年『お手紙』」  
石澤雅雄（京都市つづり方の会）

報告 「小学校4年『こんぎつね』」  
得丸浩一（京都市・小学校）

報告 高校「高校国語の観点別評価の実例」  
山上知明（京都市立高校）

報告 高校「『漢文』学習」  
九野里信夫（私立高校）

報告 「今夏の全国教育のつどいの分科会の  
特徴」 得丸浩一・九野里信夫

## 8. 障害児教育 〈301〉 13:00~16:30

テーマ 発達を学ぶ講座

「幼児期(1歳半ごろ)の発達」

講演 「幼児期(1歳半ごろ)の発達」

講師 白石正久さん（龍谷大学名誉教授）

※報告内容は一部仮題で、報告者一部未定。